



星とくらす

田中美穂著

読み物
お薦め度
5
☆☆☆☆☆

WAVE出版 A5変形 160頁 本体1,600円+税

著者は岡山県倉敷の古い街並み、いわゆる美観地区のはずれにある「蟲文庫」という古書店の店主さんである。子どもの頃から星を眺めるのが好きだった著者が星空のエッセイという形で書き始めたものであるが、「いくらかは基礎知識などもあったほうが楽しいだろう、と思い直し」と後書きにあるように、天文の基礎知識の解説も含まれた内容となっている。

季節ごとに区切って章立てされていて、日常的な出来事を綴ったエッセイと絡めて季節の星座や天文現象について解説をしているのであるが、この本を読み進めていくにつれ、途中からワクワクしてくるものを感じた。これは自分が著者と同じ岡山に住んでいて、書かれているエピソードの多くを身近に感じる事が理由であろうか。

2010年5月にお店が廃業するまで約50年間にわたり、岡山天体物理観測所に観測で訪れた研究者や地元の人々に愛され続けてきた「天文台もなか」のことがエピソードの一つとして書かれている。私は本書を読むまで知らなかったのだが「天文台もなかのうた」が存在し、しかもCD化されて発売もされていたそうである。「天文台もなか」がなくなってしまうことを惜しんで本書著者が書き込んだブログ^{*1}を見て、人間行動学者であり「かえる目」名義で音楽活動もしている滋賀県立大学の細馬宏通教授が僅か数時間で制作したそうだ。

地元の珈琲通の間でも知る人ぞ知る、「三村珈琲店」についてのエピソードが載っているのもう

れしい。岡山県西部にある井原という町（←「街」ではない（笑））の中心から車で20分ほど山奥に入ったところにある喫茶店で、昔の郵便局だった古い木造の洋風建築を利用している、とても風情のあるお店である。車がないとなかなか気軽に足を運ぶことができない場所であるが、珈琲好きの方は是非訪れてみて欲しい。

本書は倉敷天文台と本田實さんのエピソードで締められている。倉敷天文台は日本初の民間天文台として創設され、本田さんによって多くの彗星や新星の発見の舞台となった天文台である。今は住宅街に取り囲まれてしまっているが、現在も月1回の観望会や各種イベントを開催しており、前もって連絡すれば原澄治・本田實記念館として公開しているドーム内を案内してもらえる。

天文に関する基礎知識の解説の部分は、イラストレーターの木下綾乃さんによる親しみやすいイラストのおかげで非常にわかりやすく表現されている。たとえば恒星と惑星の違い、彗星と流星の違い、歳差運動、日食や月食などについてイラストや四コマ漫画による説明がされていて、難しい数式の知識がなくとも理解できるよう工夫されている。天文に興味をもち始めた子どもたちへの入門書としても役立つのではと思われる。また古書店店主という職業柄だろうか、星に関する書籍を紹介する記述も多く、巻末では参考文献として35冊の書物を紹介してくれており、星に関する書籍のガイド本という一面も担っている。

奥村真一郎（日本スペースガード協会）

^{*1} <http://mushi-bunko-diary.seesaa.net/article/150282115.html>